

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:7 事業名:富士の国やまなし観光振興施設整備補助金

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
観光資源課長 小田切三男	<p>県が設置したもののうち県が管理していない165カ所の管理団体の内訳について、前回、すべて市町村が管理と回答したが、市町村管理が25カ所、残り40カ所は公社などの県関連の管理団体であった。</p> <p>また、民間が管理している55カ所の管理団体の内訳は、県関連の管理団体40カ所、市町村関連の管理団体が12カ所、民間設置のものが3カ所であった。</p>

再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー			

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号: 7 事業(施設)名: 富士の国やまなし観光振興施設整備補助金

アドバイザー	評価区分	評価内容
小口アドバイザー	「要改善」	<p>トイレの快適化が引き続き重点になっているが、H27に行ったアンケートを見ると洋式化も含めてまだ十分でない。快適化の向上のために見直しが必要。</p> <p>改善のポイントとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新設のトイレが補助対象の中心となっているが、既設トイレで利用の多いところは観光客の印象度に大きな影響を与えるのでトイレのリニューアルも重点として欲しい。</li> <li>2 トイレのリニューアルを重点とすると対象となる施設も増えるので、補助率や補助限度額の見直しを含めて、対象施設の増加を検討して欲しい。</li> </ol> <p>成果目標を観光入込客数調査の施設の充実度としているが、この事業の実施を結果(成果目標)に反映させるのは難しいので、トイレ調査を定期的に行って快適さなどの成果指標とすることを検討して欲しい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>昭和38年から続けている事業で、どこまでやれば終了というものがない際限の無い事業であるが、一旦終期を設け、これまでの事業の検証をして、次の重点や事業の立て付けを検討して新しく始めたらいいのではないか。</p>
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>トイレ整備を補助の重点項目とすることで観光地としての快適さをアピールするのであれば、今後も管理状況を見ていかなければいけない。</p> <p>補助の必要な施設数や進捗状況の把握が難しければ、この事業の成果をどのように表すか検討を。</p>